



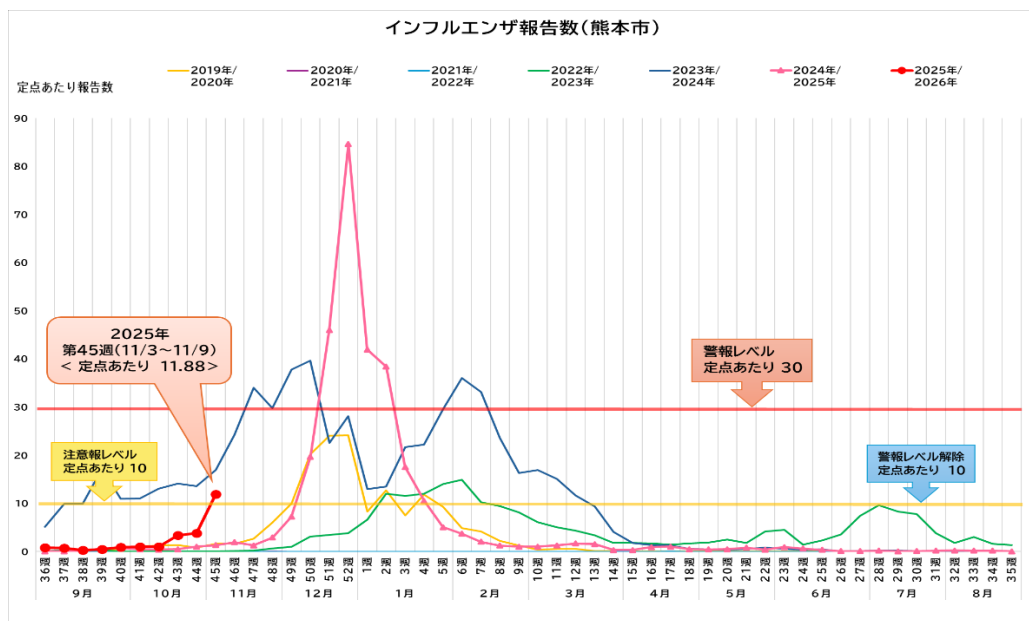
令和7年(2025年)11月14日

～インフルエンザが注意報レベルを超えました～

感染症発生動向調査において、第45週(11月3日～9日)の熊本市の定点医療機関あたりのインフルエンザの患者報告数が「11.88」となり、国が注意報レベルの基準としている「10」を超えました。

市民の皆様におかれましては、引き続き感染予防対策を徹底していただきますようお願いいたします。

【熊本市の定点あたりの患者報告数の推移】



※2020年/2021年および2021年/2022年は、報告数が1未満のためグラフに表示されておりません。

【全国・熊本県・熊本市の定点あたりの患者報告数の推移(間近5週分)】

	第41週 (10/6～10/12)	第42週 (10/13～10/19)	第43週 (10/20～10/26)	第44週 (10/27～11/2)	第45週 (11/3～11/9)
全国	2.36	3.26	6.29	14.9	21.82
熊本県	1.10	1.29	2.68	4.36	8.13
熊本市	1.00	0.96	3.38	3.79	11.88

※インフルエンザの流行基準【国が定める基準】

警報レベル 定点あたりの患者報告数 30

注意報レベル 定点あたりの患者報告数 10

裏面あり

【インフルエンザについて】

1 インフルエンザとは？

インフルエンザウイルスに感染することによって起こる感染症で、主な感染経路は「飛沫感染」と「接触感染」です。38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、全身倦怠感等の症状が比較的急速に現れるのが特徴です。併せて普通の風邪と同じように、のどの痛み、鼻水、咳等の症状も見られます。

インフルエンザはその年により流行の程度に差がありますが、11月から12月に始まり、翌年の1～3月頃に患者が増加します。

高齢者、乳幼児、妊婦、種々の慢性疾患を持つ方は、インフルエンザにかかると重症化するリスクが高いため、特に注意が必要です。

2 予防・対策は？

(1) 流行前のワクチン接種

インフルエンザの予防接種は、発症をある程度抑える効果や重症化を予防する効果があります。希望される場合は、早めに接種しましょう。

(2) 外出後の手洗い等

こまめに石鹸と流水で手を洗いましょう。インフルエンザウイルスにはアルコール製剤による手指消毒も効果があります。

(3) 室内のこまめな換気と適度な湿度の保持

室内の十分な換気が重要です。また、空気が乾燥すると、気道粘膜の防御機能が低下します。乾燥しやすい室内では、加湿器などを使って適切な湿度（50～60%）を保つことも効果的です。

(4) 十分な休養とバランスのとれた栄養摂取

体の抵抗力を高めるために、十分な休養とバランスのとれた栄養摂取を日ごろから心がけましょう。

(5) 人混みや繁華街への外出を控える

やむを得ず外出して人混みに入る可能性がある場合は、不織布（ふしょくふ）製マスクを着用することは効果的です。

【問い合わせ先】

健康危機管理課

電話：096-364-3311

課長：木庭 礼子（きば れいこ）

副課長：堀内 健太郎（ほりうち けんたろう）